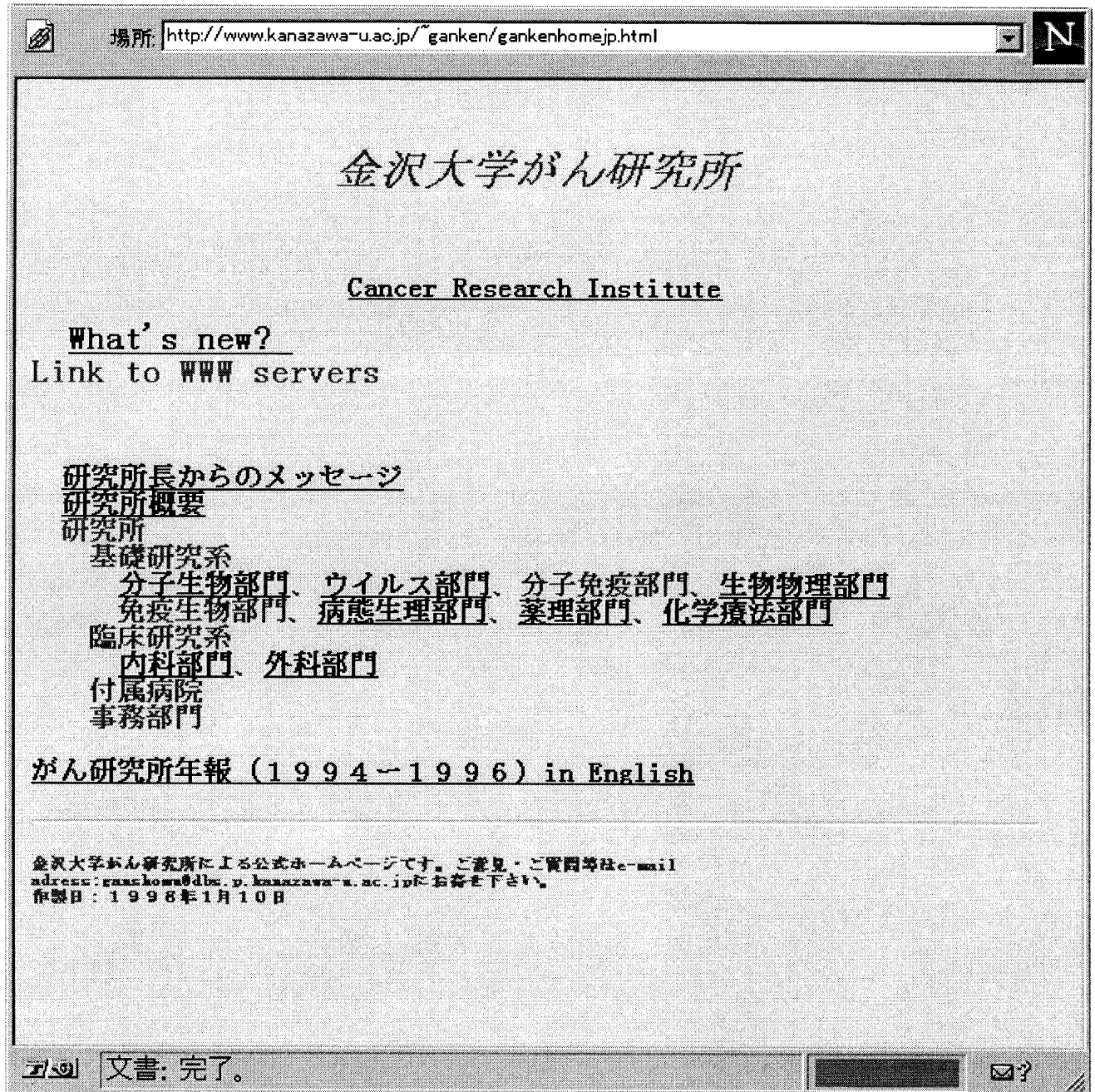


がん研究所の紹介
素人が四苦八苦ししたホームページ



がん研究所教授会では昨年の秋から、金沢大学の正式ホームページ開設に合わせて、研究所ホームページを作ってはどうかと数回の議論をした。金沢大学として情報に関する基本的な原則が確立し、金沢大学のホームページの責任の所在の考え方が全学ホームページ作成委員会で合意されたことは、研究所での議論を誠に容易にした。

研究所では、1) ホームページの作成を責任者に依頼し、教授会がその内容を合意すること、2) 各部門のホームページは各部門の責任で行うこと、3) 問題が生じた場合は、教授会が議論することを決めた。最低限の簡単な合意と見通しの乏しい責任者によるホームページの作成の試みがスタートした。

しかし、研究所は WWW サーバーの Set up や HTML 言語などまったく無知な情報過疎の部局であり、どのようにページを作れば良いは全く未知な世界だった。角間で総合情報センター主催の Mac を用いたホームページの講習会があれば参加し(なかなかデモが思うように行かず)、大変だと帰ってきたり、本屋で「誰でも出来るホームページ」とあれば、買求めて読んでみると Windows95 を使った電話でできる方法で、損をしたと嘆き、努力の割には学力がつかないまま時間は流れていった。PageMill v1.0 は使えるかも知れないと教えられ、年末に Soft を download してもらい、Manual を飛ばし飛ばしで読み、必要事項をワープロでたたいて PageMill の文書の作成を試みた。

最初は HTML 言語を自分で入力するものと思っていたのに、ワープロの文書がそのまま HTML 文書に変換できることを知って、soft の頭の良さには感心して一応各ページ間のリンクを張ってみた。金沢大学の公式ホームページは出来て、厳かな開設式がニュースとして流されるころには、研究所教授会ではホームページの開示する内容について了承が得られ、所長先生からホームページのための message を頂いた。あいにく年度末と重なり科研費などのまとめの締切と国際シンポ開催準備ですっかりホームページがどこかに飛んでしまい、ご迷惑をかけた。

国際シンポが無事終了して、どのようにすれば本物の研究所のホームページになるか、総合情報処理センターの方々や金沢大学のホームページの工房の方々に連絡を取った。ABC も分からないのに、英語を使えと言われたと同じで、file の転送の仕方も全く知らないのに、工房の方々から e-mail と電話で手取り足取りご教授をいただいた。各 file 名の終わりに .html を入れていないばかりにがん研究所のホームページ (file) は金沢大学ホームページと同じサーバーの中で約 2 週間も春を待っていた。工房の方で、素人作成の file から間違いを見い出してもらって、3 月下旬にようやく研究所ホームページが動き出した。

その後 4 ヶ月近くも古くなった情報をそのままに置いて、研究所出身で外国にいる方から「研究所のページは何にも変化がない」と e-mail でご批判を受けた。7 月になってホームページの改訂を行い、がん研究所の改組に伴う新しい教授人事の公募をホームページで行い(文書でのお知らせと重複して)、What's new? を新たにし、またページの連絡先 e-mail address を研究所庶務係に変えた。今後は、夏休みに研究所のレポート (Annual Report of Cancer Research Institute, Kanazawa University: 97 年 3 月刊行) が研究所のホームページから見られる予定となっている。金沢大学の一つの部局のホームページがよちよちと歩きだした。

好奇心のある方がごらんになればお分かりのように研究所のホームページ

(Address: <http://www.kanazawa-u.ac.jp/~ganken/gankenhomejp.html>
[http://www.kanazawa-u.ac.jp/~ganken/
CancerResearchInstitute.html](http://www.kanazawa-u.ac.jp/~ganken/CancerResearchInstitute.html))

は内容は極めて Poor でかつセンスの無いページとなっている。NetScape GoldJ や Explorer J で簡単に HTML を用いた文書が可能でホームページが作りやすくなったと噂を聞いても、また新しいことを覚えなければと億劫になり、有能な研究者か職員ががん研究所にリクルートされる方が効率的ではないかと期待を抱いている。

最後に、総合情報センター、庶務のホームページ担当、工房の方々へのこれまでのご協力への心からの謝意共に、将来に亘る強い依存心についてのご理解を願ひ致します。

(文責: がん研究所ホームページ担当者 村上 清史)